

○斷枝片葉 (其三十八)

牧野 富太郎

●仙臺吉野

明治三十三年(1900)四月二十三日ニ坂庭清一郎君^{ヤカバセイイチラク}ガ宮城縣師範學校々庭(仙臺市北一番丁)デ仙

臺しだれざくらトそめゐよしのトヲ交媒セシメテ其間種ナル一ノ櫻ヲ作ルニ成功シ同君ハ之レニ仙臺吉野ノ新
 名ヲ與ヘラレタ、私ハ昭和三年ノ春同君カラ惠マレタ標品〔昭和二年四月十六日ニ武州兒玉町坂庭吉太郎君(清
 一郎君ノ令弟)宅ニ花サキシモノヨリ採リタルモノ〕ニ基キ先キニ之レニ *Prunus Sakabei* MAKINO. ノ新學名
 ヲ下シテ之レヲ本誌デ發表シタ

●相州箱根大涌谷ノみづすぎ全滅ス

相州箱根大涌谷ノ一部ニ從來ミ

づすぎ (*Lycopodium cernuum* L.) ガ一面ニ生ジテ居ッタガ彼ノ大正十二年ノ大地震ノ時其地面ノ溫度ガ急ニ
 下降(地震前ハ其土中ヘ手ヲ入ルレバほか／＼溫カカッタ)シ從テ其處ノみづすぎガ全部死滅シテシマッタ其
 溫度ガ高カッタ時分ニハ其處ヘやしやぶしナドハ生エ得ナカッタガ溫度下降ト共ニ漸次ニ其レガ生エ出シ追々
 ニ藪トナリツ、アル、此みづすぎハ同處地點ガ溫暖ナリシ爲メ遠クヨリ飛散シ來ッタ胞子ガ其處ニ在テ萌出シ
 始メタモノダガ今遂ニ此運命ニ逢着シタノハ誠ニ殘念ナ事デアル、溫泉場ニみづすぎノ生エル例ハ尙ホ他ニモ
 アツテ例ヘバ信州ノ中房溫泉地並ニ北海道登別溫泉地ガ其レデアル是レハ其地區ガ溫カキ故生ゼシマデノ事デ
 其原因ハ頗ル簡單デ大シタ深遠ナ問題ガアルノデハナイ、ツマリ溫室内ニ生エル様ナモノダ、此等ノ地ニ此み
 づすぎノ生ズル事ハ私ハ疾クノ前ニ之レヲ『植物學雜誌』上デ世ニ報ジテ置イタ、みづすぎノ胞子ハ頗ル *Pro-*
thallus ヲ生ジ易イモノデアルカラ胞子ガ墜チ來リ其處ニ適當ナ溫度ト濕氣トガアレバ直ニ芽ヲ出スノデアラ
 ウ又其胞子ハ極メテ輕キモノデアレバ大風ノ際ニハ千里ノ外カラ飛ンデ來ルノモサシテ難事デハナイノデアアル
 ●こひながやつり今や箱根大涌谷ニ見當ラズ
 フランシニ、サウハチエー合著ノ日本植物總目錄ニハ
 ながやつりノ一變種 *Cyperus hakonensis* FRANCH. ET SAV. var. *vulcanicus* FRANCH. ET SAV. ガ載ッテ居ッ

テ其原標品ハ相州箱根ノ大涌谷デ採ッタモノデアラウト云フ事ガ其 *vulcanicus* ノ品名ト *Hab. in sulphuris fodina montis Hakone*. ノ一句トニ因テ判定セラル、私ハ明治十九年ノ秋ニ東京ノ虎列刺病流行ヲ避ケテ箱根宿ニ約一ヶ月間モ滞在シテ居ッテ其時ニ此大涌谷ノ地デ其レヲ採集シタ事ガアッタガ當時其レガ只僅カニ其場處ニ生エテ居ッタニ過ギナカッタ其後私ノ採ッタ此標品ヲ大學ノ植物學教室デ松村任三教授ニ見セテ置イタ處其レガ何時シカ紛失シテシマッタ、同處デ採ッタ此唯一ノ標品ノ無クナッタノハ今更誠ニ残念ナコトデアラル

●やぶでまりノ花トがくあぢさゐノ花

すひかづら科デアラル *Viburnum* 屬ナルやぶでまりノ花團ノ

周邊ヲ繞グル白色ノ飛蝶花ハ其萼ハ極メテ小クタゞ其花冠ガ大形ニ發達シテ居ルガ之レト外觀ヲ同ジウセルゆきのした科ノ *Hydrangea* 屬ナルがくあぢさゐノ花團ノ藍色類縁花ハ其萼片非常ニ發達シテ大形トナリ其花瓣ハ之レニ反シテ頗ル小形デアラル即チがくあぢさゐノ花ニ在テハ萼片ガ大形トナリやぶでまりニ在テハ花冠ガ大形トナリ兩者ハ正ニ反對シテ居ル、がくあぢさゐノ縁類ナルやまあぢさゐ、ベにがく、あまぢや、あぢさゐ、たまあぢさゐ、のりうつぎ、がくうつぎナドモ皆がくあぢさゐノ様ニ萼片ガ大形デアリ又やぶでまりト縁類デアラルおほでまり、かんぼくナドハやぶでまりノ花ノ様ニ其花冠ガ大形デアラル

●どうだんつゝじ

今日

デハ此どうだんつゝじノ名ハ獨リ *Enkianthus perulatus* SCHNEID. ノ專有名ノ様ニナッテ居ルガ私ノ考フル所デハ此名ハ必ズシモ其ノ様ナ譯デハナク此レハ廣ク其類品即チさざどうだん、ベにどうだん、あぶらつゝじナドヲ汎稱シタ名デアラウト思フ今實際ニ就テ見テモ其様ナ狀態ニナッテ居テ世間デハ往々さざどうだんナドヲモサウ稱ヘテ居ル、どうだんつゝじハ燈臺つゝじノ意デ其枝振リガ結び燈臺ノ其レニ似テ居ルカラノ名デアラル又とうだいつゝじトモ稱スル故ニ此名ハ其様ナ枝振リノつゝじヲ總稱シタモノデアラウト思フ現ニ紀州新宮デハをんつゝじノ事ヲとうだいつゝじト稱シテ居ルガ是レハ其枝振リカラ見立テタ名デ之レカラ推シテモ燈臺つゝじノ意ナルどうだんつゝじガ原トハ其類ヲ汎稱シタ名デアッタラウト云フコトガ想像セラル、

●まりもニ就キ榎木敬三君ヨリノ書翰ノ記事

東京市外品川町南品川ノ榎本啓三君カラ小形ノまりも數個ヲ

惠贈セラレ同時ニ同君ヨリノ來狀(昭和三年十一月十四日附)ニ次ノ記事ガアッタ、「^{タマモ}毬藻 北海道の釧路と北見の國境に男アカン山、女アカン山と稱ぶ二つの活火山がある、二の山と山との間にアカン湖と稱する周圍四五里位の小さな湖があつてこの湖(淡水湖)の水底に綠色深く非常に美しい藻が處々に一面に生えて居る、澄み切つたきれいな湖の水底深く青々と球なりに重なり合つて生えて居る狀、水底をのぞみて何共言へない美しさである、この地方では毬藻と稱び、深綠色球形にして大は直徑三四寸小は(聞き漏しました)北海道でもアカン湖のみに生育し他の地方には絶對に產出を見ざる珍品である、地方人にも其珍品たる事は堅く信じられて一般に其採集は嚴禁されて居る、非常に珍らしいものだと思ふ、瑞西の或湖には世界的に只一ヶ所出來る處があるさうだがそれはアカン湖產のものより遙に小形のものだと云ふ、……、右は小生十月下旬所用を帶びて東京より大阪への旅行中同じ夜行の列車に乗り合せた一人の若者……小生との談話が交換せられ話中前掲の如き説明云々」

●外來園藝植物ノ學名ト和名

此頃能ク世間ニ作ラレテ居ル外來ノ園藝植物ノ學名ト

和名トノ若干ヲ此處ニ記スル、此和名ハ既ニ世人ガ稱ヘ居ルモノト又新ニ下シタモノトガアル ○*Rudbeckia laciniata* L. var. *hortensia* BAILEY. やへのおほはんごんちう(牧野) ○*Aster novi-belgii* L. ゆうざんちう ○*Aster novae-angliae* L. ねばりちう(牧野) ○*Boltonia asteroides* L. Her. あゆりかちう(牧野) ○*Helianthus debilis* Nutt. ひもひさなり(牧野) ○*Helianthus decapetalus* L. var. *multiflorus* (Hort.) こひさはり(牧野) ○*Nierembergia rivularis* Miers. さんちかづち(牧野) ○*Erica melanthera* L. じやのめえりか、くろしべえりか(共ニ牧野) ○*Salpiglossis sinuata* Ruiz et Pav. ちるめんばな(牧野) ○*Schizanthus pinnatus* Ruiz et Pav. こてふばな(牧野) ○*Lobelia Erinus* L. ちりつてふ(牧野) ○*Houstonia caerulea* L. ひなちち(牧野) ○*Kochia scoparia* Schrad. var. *trichophila* BAILEY. じやはちち(牧野) ○*Amarantus salicifolium* VERTCH. やなちち(牧野)